

国語 第4学年 冬の楽しみ 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：季節を表す語を身近な経験と結び付け、音・色・動きなどの違いが伝わる文にする。行事を知っているかだけで評価せず、語を選んだ理由を確かめる。B(1)エの学習として、観察した場面、選んだ季節の語、様子を詳しくした短い文章。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、伝えたい様子が明確になるよう、表現を確かめて文を直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)エの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：観察した場面、選んだ季節の語、様子を詳しくした短い文章を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)エに関わる学習の中身を確かめる。

指摘 4：つまり児童にはどんな支援をするか。

返し：季節の語を並べるだけで見た場面が伝わらない、経験していない行事を経験として書く。これに対して、身近に見聞きしたものを、見たこと・聞いたこと・感じたことに分ける。独自例「風が吹いた」と「冷たい風がほおをかすめた」を比べ、付け加えた語が何を伝えるか説明する。経験がなければ教師が示す資料の観察で書く。冬の観察では、空気の冷たさや音の聞こえ方など自分が確かめられた特徴を選ぶ。地域に雪があると決めず、実際の経験や資料にある様子から書く。〔知識及び技能〕(1)オとB(1)エを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「季節の様子を知らない人にも伝えるには、どの言葉を加えるとよいですか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)エに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：観察した場面、選んだ季節の語、様子を詳しくした短い文章は紙に記録できる。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)エの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)エで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：この教材で、誤りやすい点をどう確かめるか。

返し：季節の語を並べるだけで見た場面が伝わらない、経験していない行事を経験として書く。身近に見聞きしたものを、見たこと・聞いたこと・感じたことに分ける。独自例「風が吹いた」と「冷たい風がほおをかすめた」を比べ、付け加えた語が何を伝えるか説明する。経験がなければ教師が示す資料の観察で書く。冬の観察では、空気の冷たさや音の聞こえ方など自分が確かめられた特徴を選ぶ。地域に雪があると決めず、実際の経験や資料にある様子から書く。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「季節の様子を知らない人にも伝えるには、どの言葉を加えるとよいですか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)エに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

